

75 歳男性。健診異常のため受診した。

身長 165 cm、体重 71 kg。体温 36.1℃。心拍数 94/分・整。血圧 115/62mmHg。呼吸数 12/分。SpO₂ 99% (room air)

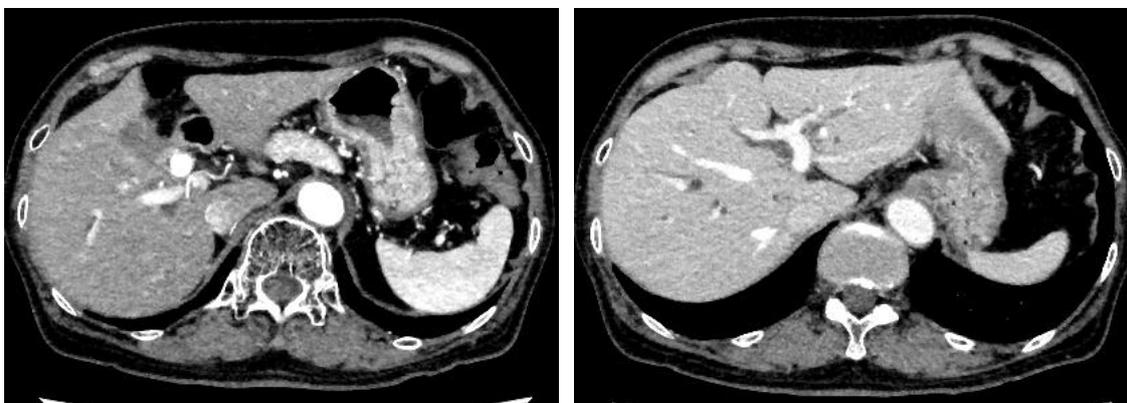
飲酒歴：なし

喫煙歴：なし

身体所見：意識清明。眼瞼結膜や眼球結膜に異常は認めない。心音、呼吸音に異常は認めない。腹部平坦・軟。腹痛を認め、右季肋部に圧痛を認める。皮膚黄染を認めない。

血液生化学所見：AST 47U/L、ALT 48U/L、LD 157U/L、ALP 1603U/L、 γ -GTP 375U/L、ChE 297U/L、T-Bil 1.3mg/dL D-Bil 0.2mg/dL、I-Bil 1.1mg/dL、CEA 4.2、CA19-9 71

以下に CT 及び ERCP の画像を示す。なお以下の画像以外に病変部位は認めなかった。



問1. この患者について正しいものはどれか

- (a) Charcot の 3 徴を全てみとめる。
- (b) この患者は Lemmel 症候群と考えられる。
- (c) 悪性腫瘍の可能性があるため、精査を必要とする。
- (d) 高蛋白食は腹痛を増悪させる危険性があるため避ける。
- (e) 腹水を認める

問2. 検査終了後経過観察となった。翌日に激しい腹痛を認めた。

この患者の血液検査で異常高値を示す可能性が高いものはなにか1つ選べ

- (a)AST
- (b)ALT
- (c)血小板
- (d)アミラーゼ
- (e)カルシウム

問1 c

問2 d

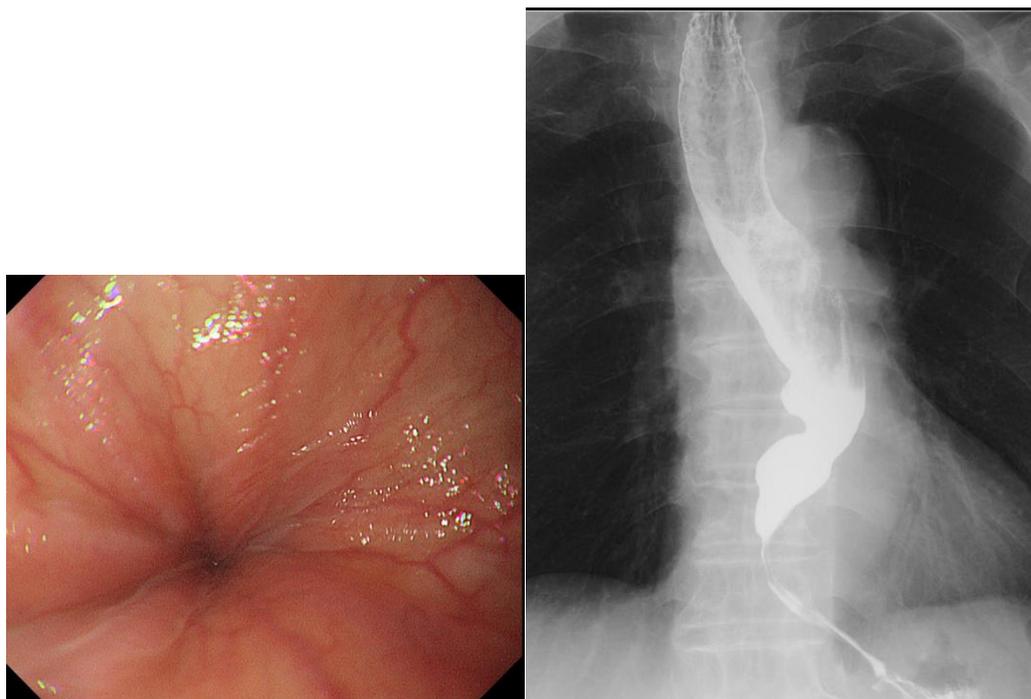
87 歳男性。嚥下困難のため受診した。半年ほど前から食事の際のつかえ感を自覚していた。つかえ感は徐々に悪化し嘔吐するようにもなった。

身長 165 cm、体重 53 kg、体温 36.7℃、心拍数 77/分・整、血圧 125/80mmHg

身体所見および血液検査では異常を認めなかった。

以下に上部消化管内視鏡検査および上部消化管造影検査の画像を示す。

なおその他 CT では腫瘤病変は認められなかった。



問 1. この疾患に対して正しいものはどれか

- (a) 胃癌を合併することが多い。
- (b) この疾患にはウイルス感染が関与している。
- (c) 治療にはカルシウム拮抗薬が第一選択になることが多い。
- (d) 24 時間 pH モニタリングで食道内 pH が 4 以下になる時間が長くなる。
- (e) 温かいものを摂取することがこの疾患のリスクとなる。

問 2. 薬物療法が奏功しなかった場合の治療法として正しいものを 2 つ選べ。

- (a) Nissen 手術
- (b) 経口内視鏡的筋層切開術 (POEM)
- (c) 内視鏡的粘膜切除術 (EMR)
- (d) Heller-Dor 術
- (e) Toupet 手術

問1 c

a→食道癌

b→原因は不明アウエルバッハ神経叢の変性、消失

d→GERD

e→冷たいもの 温かいものリスクは食道癌

問2 b d

ae は逆流防止

26歳男性。腹痛および体重減少のため来院された。昨年からおよそ25kgの体重減少が見られ、また先月から腹痛が生じ血便も混じるようになったため受診した。身長172cm、体重50.5kg。近年激しい運動は行っていない。下部内視鏡検査を行おうとしたところ肛門周囲に膿瘍を発見した。血液所見：赤血球348万、Hb 8.5g/dl、白血球7000、血小板51.8万。血液生化学：総蛋白6.5g/dl、アルブミン2.3g/dl、CRP10.7mg/dl、赤沈1時間82mm。以下に下部内視鏡検査の画像を示す。



問1. この患者の病理生検を行ったところ見られる可能性が高い所見は何か2つ選べ

- (a) 陰窩膿瘍
- (b) 乾酪性肉芽腫
- (c) 非乾酪性類上皮細胞肉芽腫
- (d) 粘膜層に限局した炎症
- (e) 全層性炎症

問2. この疾患に対して正しいものはなにか1つ選べ

- (a) この疾患の患者は年々減少している。
- (b) 抗TNF- α 製剤は結核感染の危険性を減少させる。
- (c) この疾患の好発部位は直腸である。
- (d) この疾患の患者では腸管の狭窄や穿孔の危険性がある。
- (e) 診断された場合家族も内視鏡検査を行う。

問1 c e

UCはad, 腸結核はbe

問2 d

a 増加傾向 b 増加 結核感染のスクリーニング要 c 回盲部